

田淵名誉員に朝日文化賞

1月3日付の朝日新聞に36年度朝日文化賞が発表されたが、田淵寿郎名誉員の「名古屋市の都市計画を実施した功績」に関し、栄えの受賞が決定、去る16日に贈呈式が行なわれた。

田淵名誉員は、本年71才、大正4年7月東京帝国大学工科大学土木工学科卒業後、内務技師などを歴任され、昭和23年3月より33年4月まで名古屋市助役として、戦後の名古屋市の都市計画に尽力された。

田 淵 名 誉 員

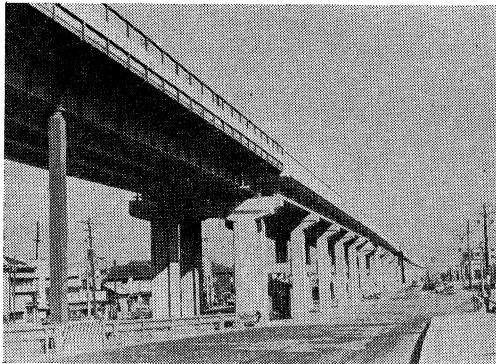


大阪高速鉄道4号線 大阪港一弁天間開通

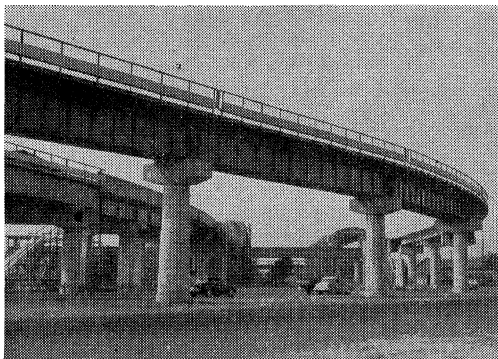
大阪市の表玄関 大阪港と国鉄環状線を結ぶ大阪港弁天町間3.4kmが約2カ年の年月と38億円の資金を要して12月11日に開通した。いずれこの路線は本町、森の宮を経て放出に達し、大阪市を東西に貫通する重要幹線となる予定である。

今回開業した区間は、台風により高汐の被害をうけているため、地下式を採用せず日本では珍らしく都市計画街路(巾員50~80m)の中央分離帯に設けられた高架鉄道である。線路部は道路交通の見とおしをよくし、軽快な感じを出し、また地盤沈下に対処するため径間12~15mのP.C桁の単純ばりを用い、横断道路との交差箇所は合成桁を用いている。各駅のホームは将来

大阪市高速鉄道干船橋



大阪市高速鉄道車庫側線



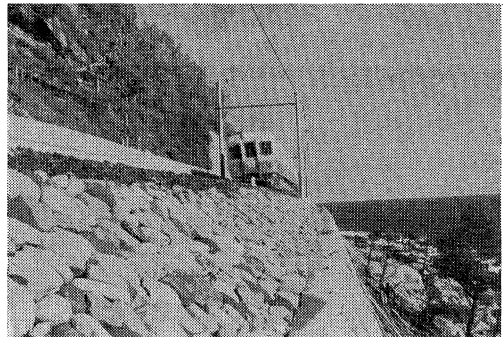
6両編成で運行できるよう設計されているが、当分は単車で運転される。停留場の特徴は道路上の構造として地上占有はせず、出札、駅務、機械の諸室は中二階に配置し、乗降客は道路上を横断せずに歩廊橋により直接歩道に導かれる。

弁天町停留場は国鉄環状線および第二阪神国道高速高架道路上に設けられた関係上高架構造となりレール面高はO.P.+16.10mの高さになる。レールは50kg PS型長さ25m、まくら木は一部を除いてポストテンションPCまくら木を使用し、すべて弾性締結されている。集電方式は4号線は阿波座付近より地下となるため第3レールを採用し、保安設備として打子式自動列車停止装置を採用している。

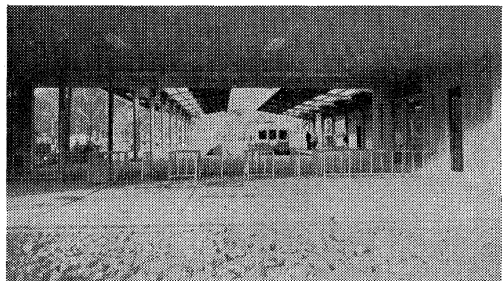
伊豆急行 伊東一下田間開通

伊豆急行KKが昭和35年1月より工事中の伊東一下田間45.8kmの鉄道建設工事は36年11月下旬工事を竣工し、12月10日多数の人々の祝福を受けて開業した。本線路は国鉄伊東駅より延長され伊豆半島の東海岸沿いに南伊豆の温泉郷を結び南下するが、天城山系の活動による起伏のはげしい地形を通るために土木工事にははかり知れない苦闘が続けられた。特にトンネル工事は延長約18kmで全延長の1/3以上を占め、かつこの地

伊東起点 27.6 km 付近
(伊豆片瀬駅—伊豆稲取駅間)



伊豆急行下田駅(降車口)



方独特の地質と温泉地帯を通過するため、その施工は慎重に行なわれた。また約120万m³におよぶ土工も高い築堤、深い切取り箇所が多く防災工法に苦心が払われている。これらの難工事をわずか20カ月の短期間に完成したことは鉄道建設史上特筆すべきことで、それだけに土木技術陣の技量と建設機械の活躍が高く賞讃される。軌間は1.067m、レール50kgで国鉄より平日1本、週末2本、伊豆急行より熱海まで平日3本の電車の相互乗り入れが行なわれる。本線の開通により東京、下田間はわず

か3時間の旅となったが、海と山の織りなす美しい風景は四季折々に変化をみせ、観光路線の名にふさわしく、南伊豆の美しさを満喫させてくれる。

昭和37年度「道路整備」政府案決まる

(1) 一般道路

一級国道については、昭和40年度までに全路線(9894km)の改築をおおむね完了することを目途に、国直轄事業で実施しており、昭和37年度においては東京～八代間(1号、2号、3号約1320km)および東京～盛岡間(4号約550km)の改築を完成するとともにそのほかの路線の整備を促進する。また直轄管理区間については、昭和40年度までに全区間とすることを目標に昭和37年度においては700kmを追加し総計4300kmの維持修繕を行なう。

二級国道および都道府県道についてはそれぞれ道路整備5カ年計画にもとづいて整備の促進をはかる。

(2) 有料道路

名神高速道路については、尼崎～栗原間を完成し、そのほかの区間の促進をはかり、中央自動車道および東海道幹線自動車国道について建設に着手する。また一般有料道路としては、昭和37年度に若戸橋、敦賀道路、大垣羽島道路、銚子大橋、名四道路、安治川橋、本州四国道、榛名道路、蔵王道路の9箇所の完成を予定している。

(3) 道路種別事業費

一級

(単位100万円)

事 項	36年度	37年度	摘 要
①直轄改修費(内地)	55663	72469	一級国道のみ
改築	47362	64519	
維持・修繕	8301	7950	
②直轄改修費(北海道)	17505	19936	北海道をふくむ
一級国道	6496	8552	
二級国道	6090	6235	
地方道	3044	3255	
維持・修繕	1875	1894	
③補助事業費	65653	73883	北海道をふくむ
一級国道	1374	1128	
二級国道	22823	25836	
地方道	41451	46919	
④離島道路事業費	1064	1200	〃
⑤雪害道路事業費	3363	3617	〃
⑥災害関連事業費	711	834	〃
⑦建設機械整備費	2780	2927	〃
⑧道路事業調査費	672	961	〃
⑨街路事業費	44695	59379	〃
内地補助	43646	58064	〃
北海道補助	965	1183	〃
離島道路事業費	84	132	〃

その他

(単位100万円)

事 項	36年度	37年度	摘 要
①再建団体補助率差額	2863	5475	国 費
②日本道路公団出資金	7000	9000	〃
③首都高速道路公団出資金	500	1500	〃
④阪神高速道路公団出資金	—	200	〃

滝発電所(電源開発KK)竣工

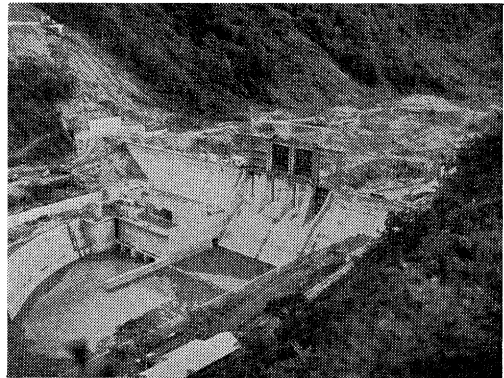
電源開発KKが昭和34年7月以来只見川筋田子倉発電所の下

流に建設中の滝発電所はこのほど竣工し、昨年12月5日より営業運転を開始した。

発電所の概要は次のとおりである。

発電所位置：福島県大沼郡金山町大字田沢字境の沢
 出力(kW)：最大 92000 常時 17700 常尖 86100
 使用水量(m³/sec)： 300 62.62 300
 有効落差(m)： 35.82 35.04 32.99
 年間発生電力量： 324000mWh
 グラム：型式 コンクリート重力式、高さ46m、
 堤長 264m、堤体積 120000m³
 調整池：総容量 27000000m³、有効容量 10300000m³
 利用水深 5m
 水圧鉄管：長さ 48m、内径 7~6m、2条
 製作者 川崎重工業
 水車：型式 立軸カプラン、出力 50000kW、2台
 製作者 新三菱重工
 発電機：容量 50000kVA、2台、製作者 三菱電機
 土木工事：前田建設
 工事費：95億1900万円

滝 発 電 所



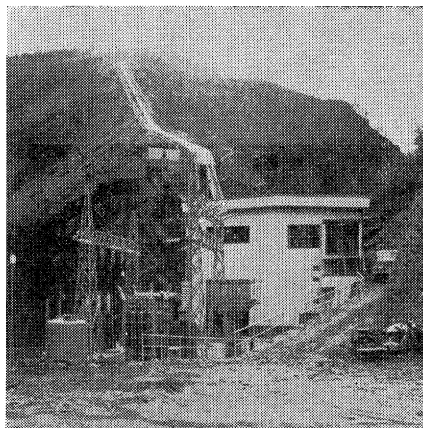
境川第三発電所(北陸電力KK)竣工

北陸電力KKが昭和35年10月以来、富山県境川に工事中であった境川第三発電所(自流式)はこのほど竣工し、昨年12月20日より営業運転を開始した。

発電所の概要は次のとおりである。

発電所位置：富山県上新川郡朝日町大平

境 川 第 三 発 電 所

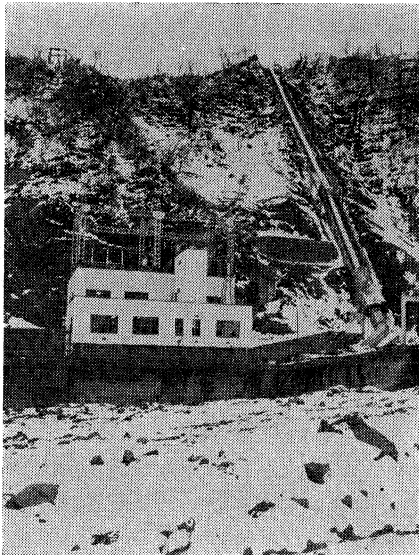


出力(kW)：最大 6 600 常時 870
 使用水量 (m³/sec)： 4.40 0.99
 有効落差 (m)： 186.0 190.7
 年間発生電力量：35 343 mWh
 導水路：型式 無圧馬蹄型トンネル，延長 4 456 m
 内径 2.05 m
 水圧鉄管：長さ 407 m，内径 1.4~1.05 m，1条
 製作者 川崎重工
 水車：型式 立軸フランシス，出力 6 900 kW，1台
 製作者 川崎電機
 発電機：容量 7 500 kVA，1台，製作者 川崎電機
 土木工事：大豊建設，黒東土建
 工事費：8億 7 700 万円

三つ又第一発電所（北陸電力 KK）竣工

北陸電力KKが昭和 35 年 4 月以来，手取川水系尾添川の upstream に工事中の三つ又第一発電所（自流式）はこのほど竣工し，昨年 12 月 22 日より営業運転を開始した。

三つ又第一発電所



発電所の概要は次のとおりである。

発電所位置：石川県石川郡尾口村宇尾添
 出力(kW)：最大 8 700 常時 920
 使用水量 (m³/sec)： 5.7 1.17
 有効落差 (m)： 278.4 191.3
 年間発生電力量： 44 130 mWh
 導水路：型式 無圧馬蹄型トンネル，延長 2 835 m
 内径 2.2 m
 水圧鉄管：長さ 360 m，内径 1.6~1.1 m，1条
 製作者 酒井鉄工所
 水車：型式 立軸フランシス，出力 9 100 kW，1台
 製作者 日立製作所
 発電機：容量 10 000 kVA，1台，製作者 日立製作所
 土木工事：北都組，飛島土木
 工事費：10億 3 300 万円

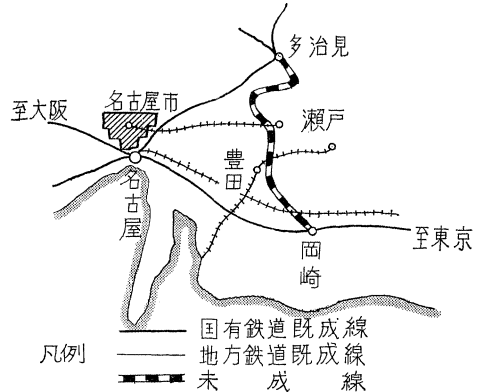
岡多線の着工祝賀式行なわれる

昭和 36 年 12 月 6 日愛知県岡崎市において，地元期成同盟会主催で，岡多線の着工祝賀式が挙行された。

岡多線は，現在の東海道本線岡崎駅と，中央本線多治見駅を結ぶ路線で，延長約 60.5 km である。

岡多線建設の目的は，近時発展の途上にある自動車工業関係の諸材料，および瀬戸市付近一帯の埋蔵されている砂，粘土などの輸送と，あわせて地方連絡である。

岡多線位置図



土木学会刊行物案内

お申込みは土木学会事業課へ—東京都新宿区四谷一丁目・振替東京 16828 番

書籍名	内容	体裁	会 特 員 価	定価	〒
● 昭和 36 年度改訂・プレストレスト コンクリート設計施工指針	1 条から 64 条までの条文に解説を付し，新たに制定された PC グラウト指針案，PC グラウト試験方法，JIS など付した最近の指針	B 6 判 130 頁 クロス上製	250 円	300 円	50 円
● 最近におけるプレストレストコンクリート —設計施工指針の改訂と PC 橋の現況—	上記指針の精神を徹底させるために，学会で夏期講習会を開いたが本書はそのテキストとして使用，好評を博している。	B 5 判 220 頁	400 円	550 円	80 円
● 関門トンネル工事誌 (関門トンネル工事誌編さん委員会編)	道路公団で関係者に頒布したのちの版權を学会が譲渡をうけて再版したもの	B 5 判 800 頁 箱入豪華本	1 500 円	2 000 円	200 円
● 吉田徳次郎博士論文集	故博士の生前発表された数多くの論文から代表的な論文 9 編を選び編集した技術者必携の書。	B 5 判 280 頁 箱入豪華本	800 円	1 100 円	120 円